

(肝属郡串良町上小原5177番地)

位置と環境

上小原古墳群は、町の中心地より南西側へ約4kmのところであり、上小原字瀬戸・下方眼・田之上・上の園の地内に所在する。

本古墳群は、標高約20mの台地上で集落を含んだ広範囲におよんでおる。遺跡の南側には肝属川が東流し、串良町と高山町の水田地帯を見下ろすところに位置している。

調査の経緯

昭和48年・49年には鹿児島県考古学会の有志により測量調査が実施されている。

また、昭和51年には県教育委員会により、大隅地区埋蔵文化財分布調査の一環として、河口貞徳が1号地下式横穴墓の調査を行っている。さらに、昭和52年には県教育委員会により、周辺を含んだ地域で確認調査が実施されている。

平成7年には、串良町教育委員会により県単道路大隅高山停車場線整備工事に伴う本調査を行った。

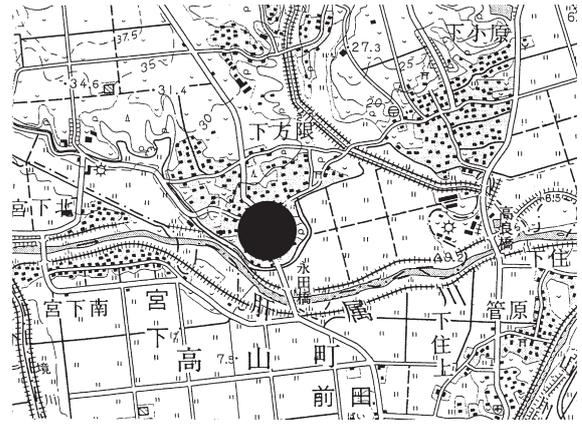
平成12年には、串良町教育委員会により串良町遺跡地図作成に伴う分布調査を実施し、同年に鹿児島国際大学の中園聡・鹿児島女子短期大学の太西智和等の有志による上小原4号墳（前方後円墳）の測量調査・分布調査が実施された。

遺構と遺物

平成7年の県単道路建設に伴う調査では、近世の古道・柱穴等の遺構と薩摩焼・染付・白磁等の遺物が出土したが、上小原古墳群と関連のある遺構・遺物の発見はなかった。

現在、上小原古墳群は、前方後円墳1基・円墳20基と地下式横穴墓が存在する古墳群で、円墳は、消滅したり墳丘が削平を受けたものが多い。

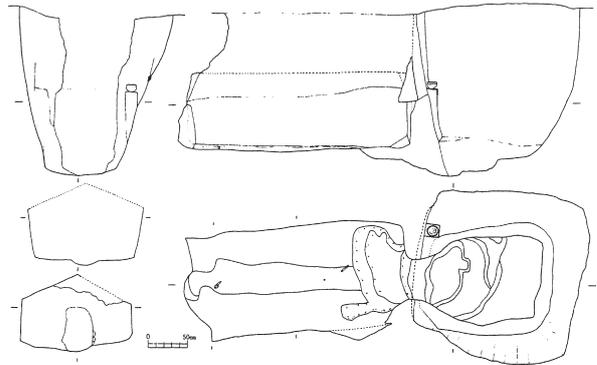
昭和51年に調査された1号地下式横穴墓は、主軸はほぼ東西方向を示し、竪穴部は西側に位置していたようである。全長は4.7mで竪穴部は2.1×2.1mの方形で深さ2mを測る。羨道部分は0.7×1.1mの長方形、高さ約1mの切り妻の家形だったようである。遺物は、供献と思われる土師器の塊が1点と粘



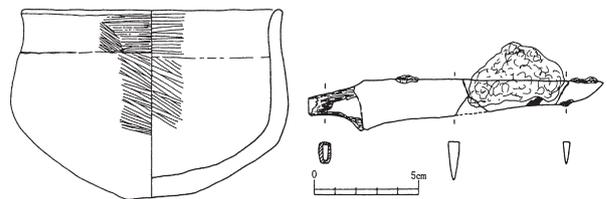
第1図 上小原古墳群の位置

土床内に刀子が1点副葬されていた。5世紀代と考えられている。

また、昭和52年に採集された須恵器は、1・2は甕で、体部に円孔を穿つものである。大型甕は体部がビール樽を横倒しにしたような形状で樽形甕と呼ばれている。3は、蓋と想定される。約5世紀の中頃のものと思われる。



第2図 上小原地下式横穴墓



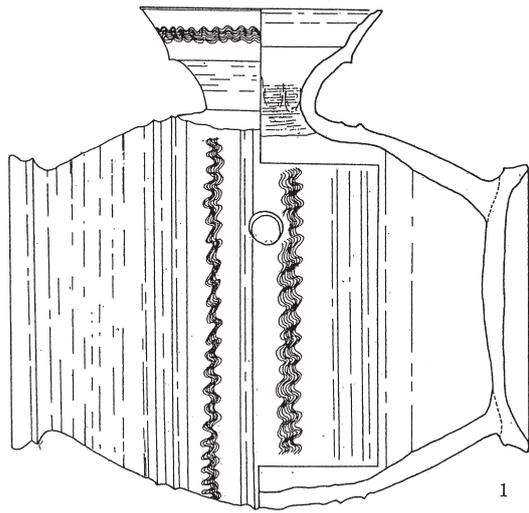
第3図 上小原古墳群内出土遺物

資料の所在

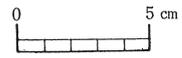
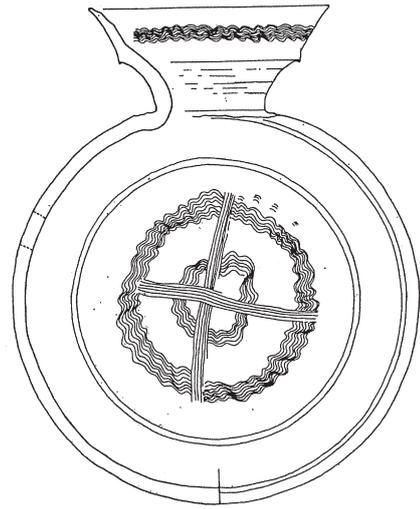
出土遺物は、県教育委員会に保管されている。

参考文献

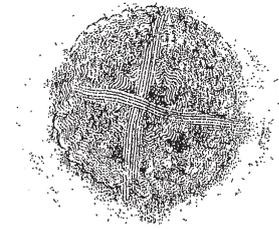
鹿児島県教育委員会1978「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」『鹿児島県埋蔵文化財調査発掘報告書』



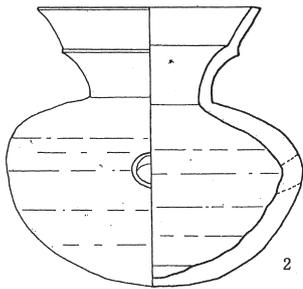
1



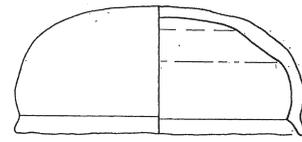
1の左側面拓影



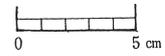
1の右側面拓影



2



3



第4図 上小原古墳群内出土の須恵器